

## アトサヌプリの火山活動解説資料（令和4年4月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1-①～②、図2）  
監視カメラによる観測では、F1噴気孔群及びF2噴気孔群の噴気の高さは火口上概ね200m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。
- ・地震及び微動の発生状況（図1-③、図3、図4）  
26日にアトサヌプリの北西側で火山性地震が17回発生し、これらのうち15時41分に北西約4kmで発生した最大規模の地震（マグニチュード1.4）により、弟子屈町サウンチサップで震度2を観測しました。その他の期間では火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。  
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図5）  
GNSS連続観測では、アトサヌプリカルデラを囲む基線で短縮の変化が観測されていましたが、2021年秋以降伸長に転じています。

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年5月分）は令和4年6月8日に発表する予定です。

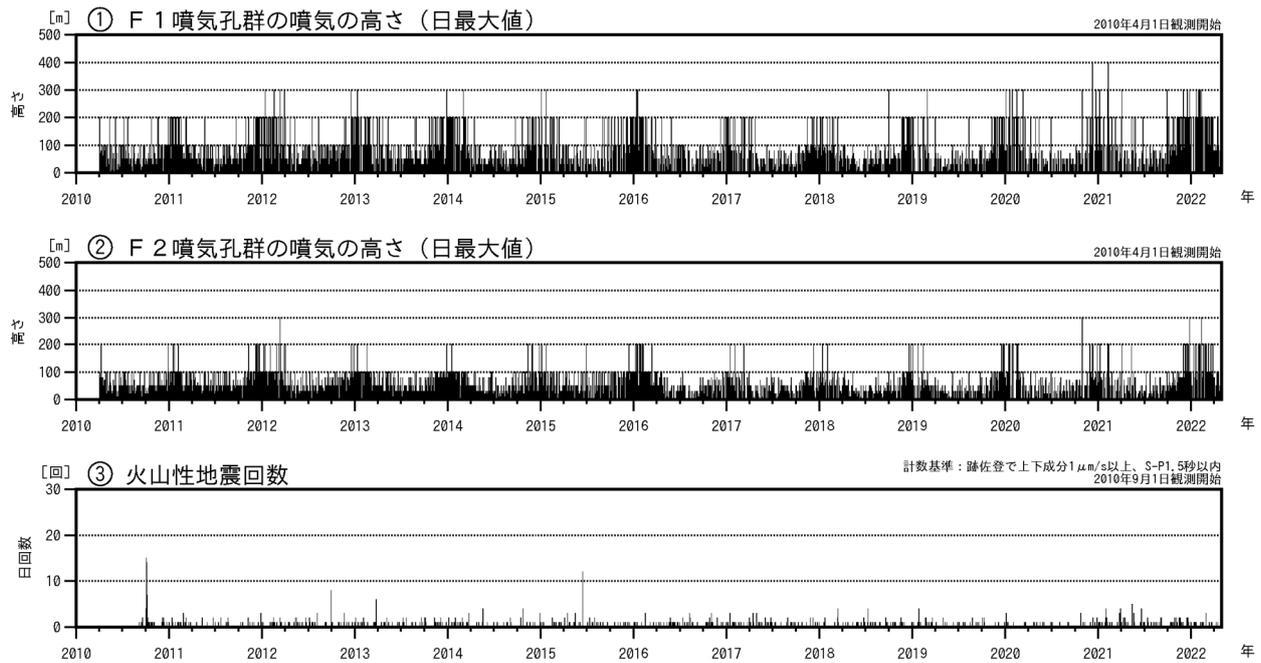


図1 アトサヌプリ 火山活動経過図（2010年4月～2022年4月）



図2 アトサヌプリ 北東側から見たF 1 噴気孔群及びF 2 噴気孔群の状況  
（北東山麓監視カメラによる）

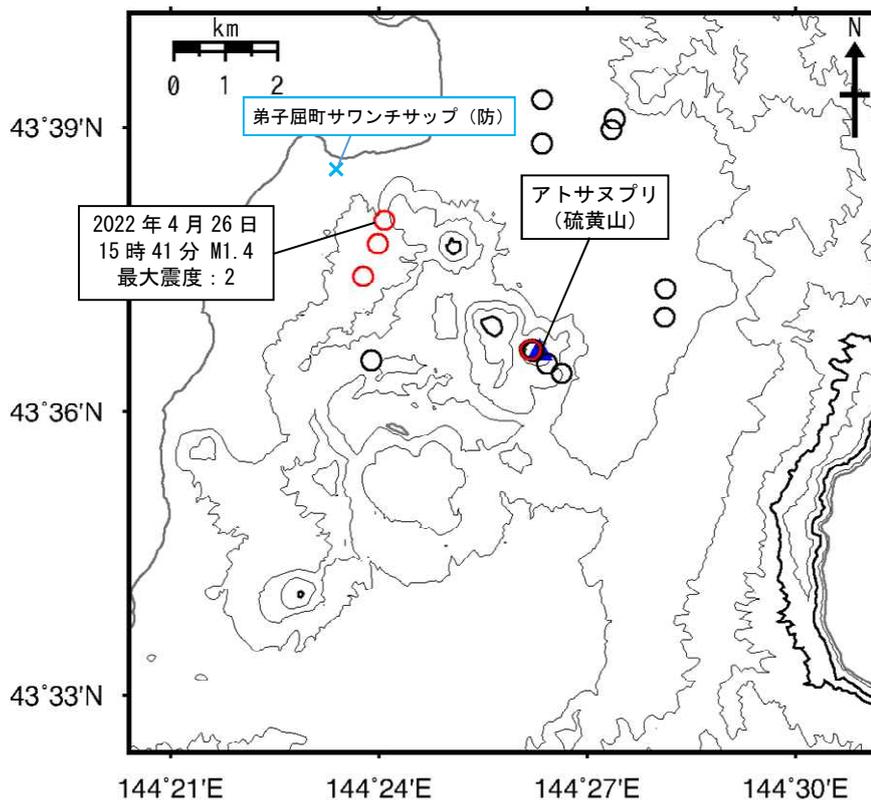


図3 アトサヌプリ 火山性地震の震央分布（2019年10月～2022年4月）

○印：2019年10月～2022年3月の震源

○印：2022年4月の震源

- ・26日にアトサヌプリの北西側で地震が一時的に増加し、これらのうち15時41分に北西約4kmで発生した地震（マグニチュード1.4）により、図中に×で示した弟子屈町サワンチサップで震度2を観測しました。

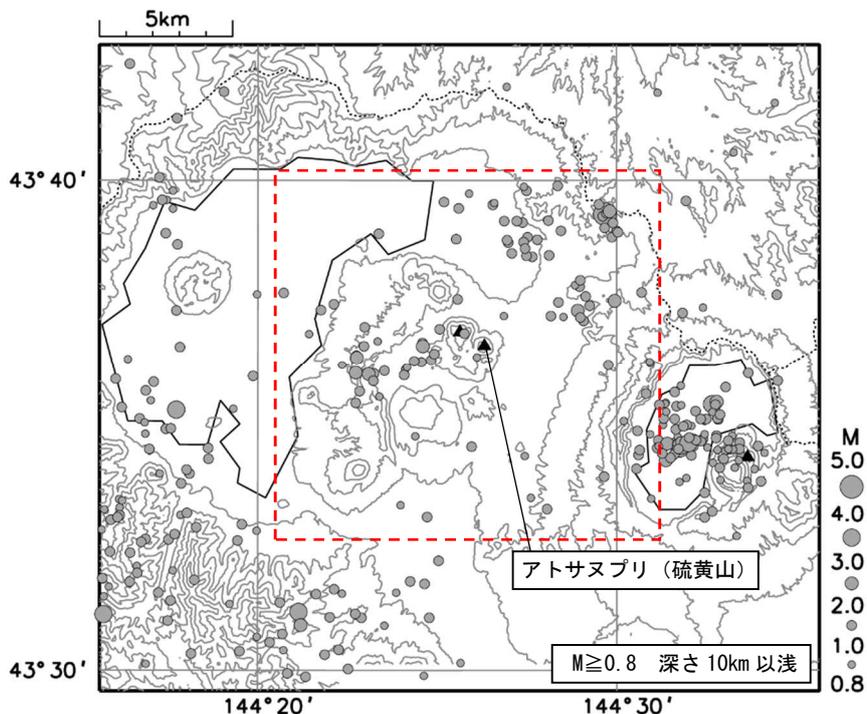


図4 広域地震観測網による周辺の地震活動（1997年10月～2022年4月）

- ・図中の赤破線内の領域は図3に示した震央分布の描画範囲にあたります。

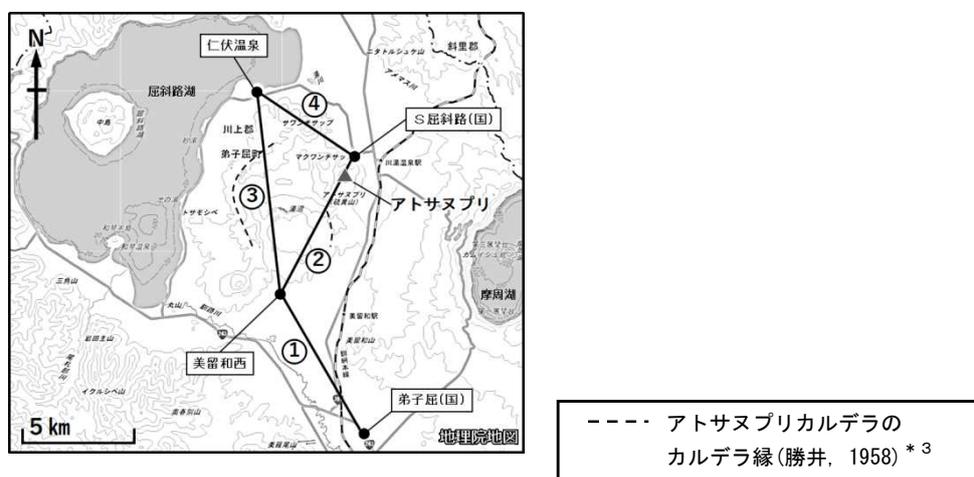
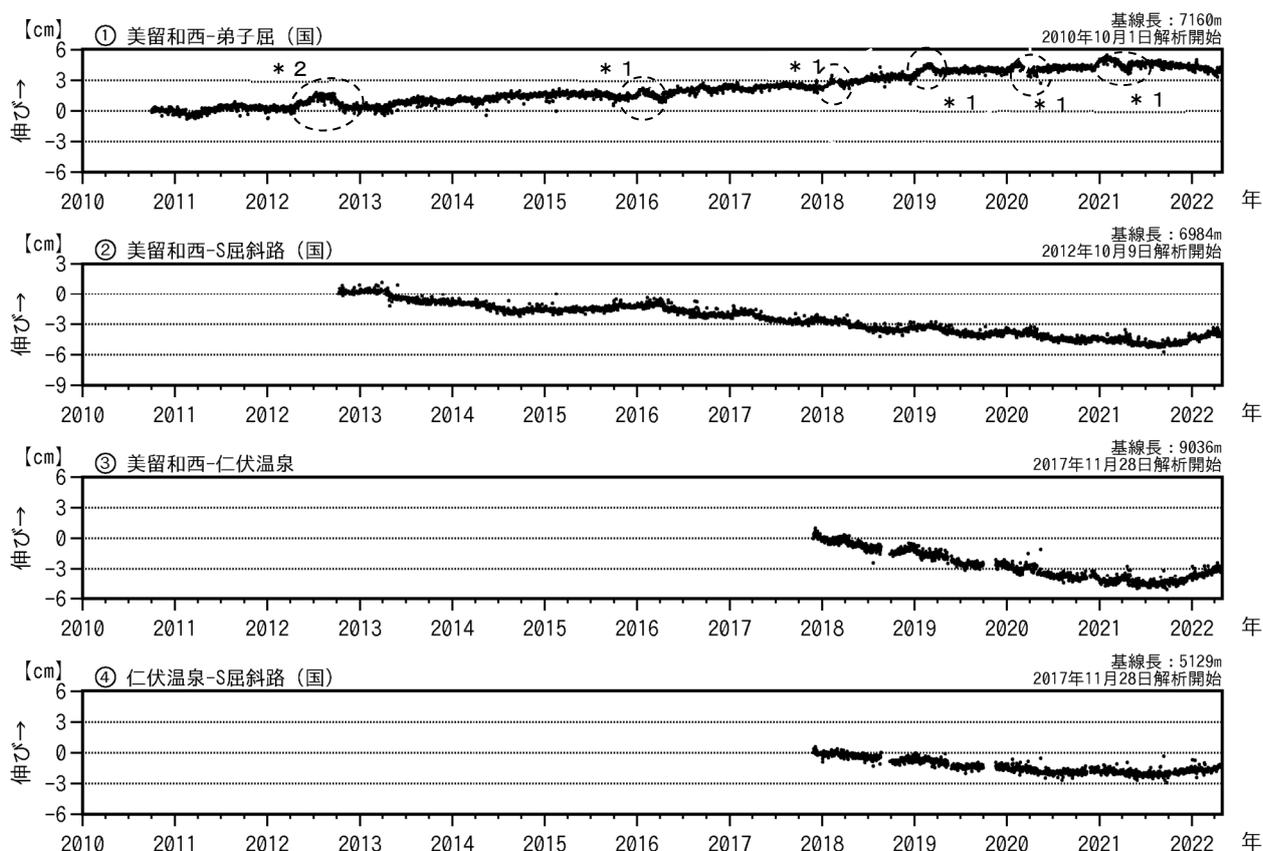


図5 アトサヌプリ GNSS連続観測による基線長変化 (2010年10月～2022年4月) 及び観測点配置図

①の破線内の変動 (\* 1) は、美留和西観測点の凍上によるものと考えられます。

①の破線内の変動 (\* 2) は、弟子屈(国)付近の樹木の影響及び伐採 (2012年9月下旬) によるものです。

グラフの空白部分は欠測を示します。

\* 3 勝井義雄 (1958) 阿寒・屈斜路火山群、地球科学、39巻。

- ・アトサヌプリカルデラを囲む基線②～④で短縮の変化が観測されていましたが、2021年秋以降伸長に転じています。

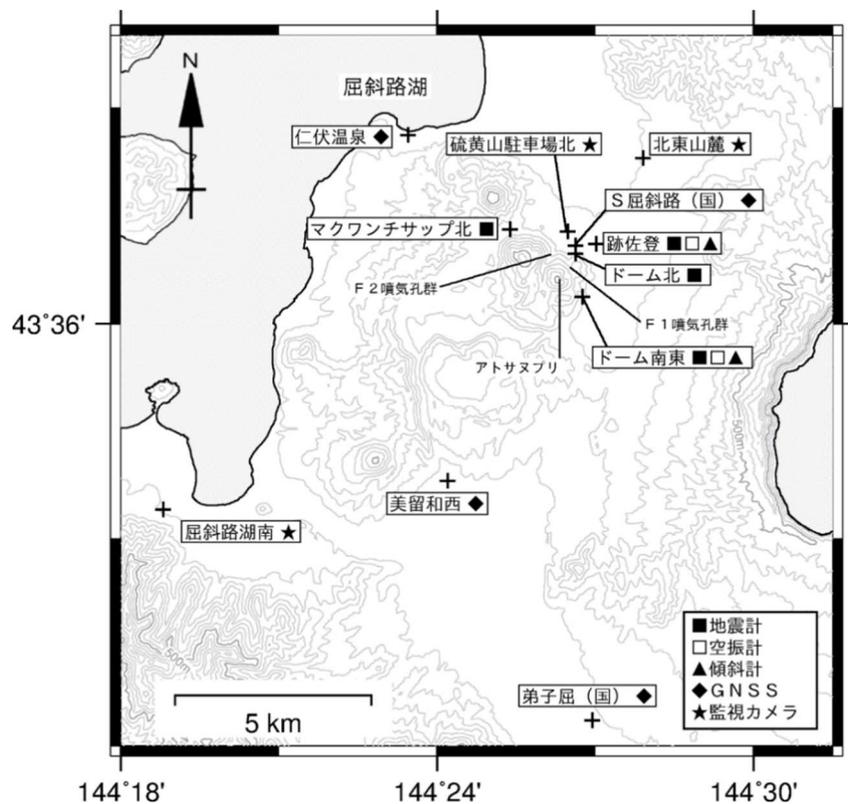


図6 アトサヌプリ 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

（国）：国土地理院